

科目名	ボランティア論			ナンバリング	REC131	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	鎌田真理子	担当教員					

授業の概要	我が国の地域社会は、過疎化、高齢化、貧困、社会的少数者への排除や差別、大規模災害などの社会問題への対処の在り方が問われている。解決のために既存の社会のシステムでの対応も困難になっている。このように課題解決困難な課題が山積している状況では、その解決の手がかりとして民間の社会的企業やボランティア・NPO・NGOといった市民公益活動が一定の成果を上げており、閉塞感が拡大した状況では期待を持たれている。ボランティアの歴史的背景や意義を紹介し、今後、地域社会でボランティアは何を目指すのか検討し、ボランティア実践の在り方や組織化、活動の企画を前提として学ぶことを目的としている。						
到達目標	1.資本主義社会と我が国が抱える社会問題と地域社会の課題について理解し概説できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	1.ボランティアの理念や活動形態・分野・システム等に多様な内容が含まれている。常に新聞・ニュースで興味や関心を持ち情報収集をしておくことが望ましい。 2.関連する授業を受講し理解の幅を拡大・深めることも望ましい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
		1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.ボランティア・市民活動の概念、活動、役割について概説できる。 2.支援システム、推進方法を理解し概説できる。 3.リカレント教育・生涯教育・福祉教育などのありかたについて概説できる。	1.ボランティア・市民活動の概念、活動、役割について概説し、先駆的事例やモデルなどを紹介できる。 2.支援システム、推進方法を理解し概説でき、ボランティアセンターやNPO市民活動センターコーディネートなどでインターンシップなどを経験し、必要とされるスキルを習得している。 3.リカレント教育・生涯教育・福祉教育などのありかたについて事例を概説し現状と課題について概説できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					40%
小テスト・授業内レポート	○	○	○				20%
宿題・授業外レポート	○	○			○		20%
授業態度・授業への参加			○	○			20%

課題、評価のフィードバック	1.中間時に小レポートの提出を求め、評価基準をしめすとともに学習の理解を深めるためのアドバイスを行う。 2.講義終了時に提出されたコメントシートの感想や質問に、講義内で質問への解答を提示する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
ることが	第1回	オリエンテーション ボランティアに関する基本的問題①	現代社会とボランティアの領域の拡大について概説をする。	
	第2回	ボランティアに関する基本的問題②	ボランティアの理念・哲学とは何かを概説する。	
	第3回	ボランティアに関する基本的問題③	ボランティアの活動の歴史について概説する。	
	第4回	ボランティアに関する基本的問題④	ボランティア活動提供組織と種類について概説する。	
	第5回	ボランティアに関する基本的問題⑤	ボランティア活動の国際組織・機関（NGO）及び活動について概説する。	
	第6回	ボランティア活動 国内編①	社会福祉協議会・ボランティアセンターなどの供給組織形態について概説する。	
	第7回	ボランティア活動 国内編②	ボランティア・コーディネートの役割と機能について概説する。	
	第8回	ボランティア活動 国内編③	震災とボランティア組織の歴史および現状と課題について概説する。	
	第9回	ボランティア活動 国内編④	地域課題で期待されるコミュニティ課題とボランティアについて概説する。	
	第10回	ボランティア活動 国際編①	医療・公衆衛生等のボランティア活動について概説する。	
	第11回	ボランティア活動 国際編②	国際社会での紛争及び難民支援等のボランティアについて概説する。	
	第12回	ボランティア活動 国際編③	貧困とボランティアについて概説する。	
	第13回	ボランティア活動 国際編④	環境とボランティアについて概説する。	
	第14回	ボランティア活動の現状と課題	実際のボランティア活動の手順と手法、注意点などのガイダンスと活動・振り返りについて概説する。	
	第15回	振り返り	半期の内容の振り返りとレポート作成の概説。	
	試験	試験は実施せずにレポートの提出を求める。		
授業の進め方		テキストを用いて、関係する資料、視聴覚教材などを用いて理解を深める。個々の受講生はボランティア活動や公益活動に参加をし体験してくる経験を持つことが望ましい。その実践過程で得られた知見を更に基礎として学びを深めることが可能となる。		
授業外学習の指示		ボランティア活動は自身も経験することがスタートでもあるため、NPO市民活動センターおよびボランティアセンター等のニーズに参加し体験することで、供給システムやコーディネーション、活動、ニーズ側と活動側の状況などを具体的に理解できる。アドバイスも可能なので、教員に相談を頂きたい。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	『ボランティア論』柴田謙治・原田正樹・名賀 亨編、(株)みらい、ISBN978-4-86015-206-2
参考書	必要に応じ適時紹介する。
参考URLなど	以下のホームページをキーワード選択をしていただきたい。全国社会福祉協議会、都道府県ボランティアセンター、各市区町村ボランティアセンター、各自治体、各市区町村で開設している場合はNPO市民活動センター、NGOおよびNPO団体・組織が開設しているホームページ等。
その他	

ボランティア社会論

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		例：模範的、レベル3	例：標準、合格、レベル2	例：要改善、不合格、レベル1
1	ボランティア理念・意義の一般的知識	ボランティアの理念や哲学、意識についての理論や考え方を理解し、体系的に知識を得られ活動や仕組みに参加できる準備が整っている。	ボランティアの理念や哲学、意識についての理論や考え方を理解し参加できる準備が整っている。	ボランティアの理念については理解をしているが意義などの理解には至っていない。
2	ボランティアの活動形態	現在までのボランティアの活動態の歴史を理解し、求められているボランティア象の具体的なイメージを実践できる準備が整っている。	求められているボランティア象の具体的なイメージを実践できる準備が整っている。	ボランティア活動への興味や関心は薄い。
3	活動組織・対象の理解および具体的な事例情報の収集	興味関心から情報収集を行い、ボランティア活動組織や対象を理解し、具体的な事例やモデルを考察できている。	興味関心から情報収集を行い、ボランティア活動組織や対象を理解している。	ボランティア活動組織や対象を理解している。
4	ニーズ分析の手法と活動の在り方手法	ボランティアのニーズの分析が情報収集やアセスメント手法で十分になされ、サポート内容がニーズ側やコーディネーターと共に情報共有できる準備ができている。	ニーズは理解し、ボランティアとして求められているボランティア活動の在り方を概説できる。	ボランティア活動のルーチン化されたプログラムに参加準備はできているが、ニーズの理解は不十分である。
5	コーディネーション	ボランティアセンターや市民活動センターのコーディネート機能の理想と現状を理解し、適切なコーディネートの在り方を概説し活動準備ができている。	コーディネーターの役割や機能について概説できる。	コーディネーターの理解は充分ではない。
6				
7				